

人権啓発キャラバン事業委託 実施報告書

2024年2月

人権啓発キャラバンコンソーシアム

(NPO 法人ボランタリーネイバーズ NPO 法人 NIED・国際理解教育センター)

目次

1. 開催概要	2
2. プレイベント・特別講演「共に生きるとは何か -取材から視えた多様性-」	3
3. ワークショップ「聞いて話して 一緒に考えよう!人権のこと」	5
4. ワークショップ成果物の分析・まとめと提案、アンケートまとめ	8

1. 開催概要

1. 事業の目的

近年、インターネットの普及を始めとした情報化の進展、少子高齢化等の地域社会の変化、経済的格差の拡大等の経済社会の構造の変化などによって、人権に関する課題が複雑化・多様化する中、様々な人権課題の解消を図るため、2022年4月に「愛知県人権尊重の社会づくり条例」を施行したところであり、今後は、条例の内容について、県民の理解をより一層深め、条例の実効性を高めていく必要がある。

また、現行の「人権教育・啓発に関する愛知県行動計画」に代わる、条例第5条に基づく「人権施策に関する基本的な計画」の策定を検討することとしているから、人権課題について、県民の生の声を聞くことができる機会を創出することが望まれる。こうしたことから、地域の企業や大学、NPO等と連携して、条例を啓発するとともに、県民の人権課題に対する意見を把握することを目的として、人権啓発キャラバン事業を実施する。

2. 事業の構成

1) イベント・特別講演「共に生きるとは何か ー取材から視えた多様性ー」

人権啓発キャラバン開催に向けたプレ企画として人権に関わる特別講演会を開催し、人権啓発キャラバンへの参加を呼び掛け、事業全体の周知を幅広く図った。

2) ワークショップ「聞いて話して 一緒に考えよう!人権のこと」

愛知県人権尊重の社会づくり条例について理解し、参加者が人権意識を持ち自分と人との関りについて認識を深める機会とした。参加者の意見を引き出すワークショッププログラムを企画し、多様な県民の意見を集める場作りを行った。

2. プレイベント・特別講演「共に生きるとは何か —取材から視えた多様性—」

日本国内に暮らす多様な人々の中には、命の危険から逃れ、難民とならざるをえなかった人々がいます。この社会で「共に生きるとは何か」ということを、国内外で出会った人々の声、そして家族の歩んできた歴史も交えて考えていきます。

1) 開催概要

- ・日時: 2023年9月9日(土) 14:00~16:00 ※13:45より受付開始
- ・実施方法: オンライン (Zoom ウェビナー) ※終了後、申込者限定にてアーカイブ配信を実施
- ・参加費: 無料
- ・定員: 100名
- ・ゲスト: 安田 菜津紀さん

認定 NPO 法人 Dialogue for People 副代表 / フォトジャーナリスト

1987年神奈川県生まれ。認定 NPO 法人 Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『国籍と遺書、兄への手紙 ルーツを巡る旅の先に』(ヘウレーカ)、他。上智大学卒。現在、TBS テレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

・タイムスケジュール

- 14:00 あいさつ、愛知県人権尊重社会づくり条例について
- 14:15 講演(90分) ※質疑応答含む
- 15:45 終わりのあいさつ、アンケートの案内
- 16:00 終了

・チラシ

共に生きるとは何か
—取材から視えた多様性—

参加費 無料
オンライン

2023年
9月9日(土)
13:45 14:00 16:00 9月7日(木)

定員 100名

申込方法は、申込者限定にてアーカイブ配信いたします。

ゲスト 安田 菜津紀さん
認定 NPO 法人 Dialogue for People 副代表
フォトジャーナリスト

1987年神奈川県生まれ。認定 NPO 法人 Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『国籍と遺書、兄への手紙 ルーツを巡る旅の先に』(ヘウレーカ)、他。上智大学卒。現在、TBS テレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。

タイムスケジュール
14:00 オープニング
14:15 講演(90分) ※質疑応答含む
15:45 閉会

申込方法 WEB から

このイベントは、団体の主催する「**人権啓発キヤラパン事業**」の一環として実施されます。申込は団体のウェブサイトから可能です。

申込先: <https://forms.office.com/8x6e585nV4>

主催: 愛知県民文化局 人権推進課
協賛: NPO 法人 Dialogue for People

一緒に考えよう!
聞いて話して **人権** のこと

参加費 各会場50名(計100名)
参加費 無料
申込受付 9月4日より開始

自分は意見も発言もしていないから関係ない。そう思っているうちに、だれかの人権を傷つけているかもしれない。聞いてみる、話してみる、考えしてみる。そうすれば、今まで気づかなかった差別や社会をより良くするアイデアが、見えてくるかも。聞いて話して、一緒に考えよう! 人権のこと。

11月 LGBT / 部落差別
日時: 10月21日(土) 13:30~17:00
会場: あいち NPO 交流プラザ (ウイムあいち2F) 名古屋駅前駅 徒歩5分

12月 子ども / 外国人
日時: 10月29日(日) 13:30~17:00
会場: 岩倉市民プラザ 岩倉駅前 徒歩5分

12月 子ども / 外国人
日時: 12月10日(日) 13:30~17:00
会場: 刈谷市総合文化センターアイリス 刈谷駅前 徒歩5分

12月 LGBT / 部落差別
日時: 12月17日(日) 13:30~17:00
会場: 豊橋市民センター 豊橋駅前 徒歩5分

主催内容

01 テーマに関する事例発表
【1会場2テーマ】
当事者や当事者として被害に巻き込まれている人から、人権に関わる各テーマについての現状、運動内容、被害などを伺います。

02 様々な人権課題について考えるワークショップ
各会場で選出したテーマを基に、様々な人権課題について知り、参加者の意見や経験を共有し、すでに起こっている人権が課題とされる社会づくりのアイデアを発信します。

主催: 愛知県民文化局 人権推進課
協賛: NPO 法人 Dialogue for People

・ポスター

The top poster, titled "共に生きるとは何か" (What does 'Living Together' mean?), features a woman holding a dog and a family illustration. It promotes a free Zoom event on September 9, 2023, at 14:00, with a QR code for registration. The event is hosted by Ms. Anoda Katsunori, a representative director of the organization. The bottom poster, titled "一緒に考えよう！聞いて話して 人権のこと" (Let's think together! Listen and talk about human rights), includes a map of Kansai and lists four discussion topics: 1. LGBT/性少数者 (10/21, 13:30-15:00), 2. 子ど／外国人 (10/29, 13:30-15:00), 3. 子ど／外国人 (12/10, 13:30-15:00), and 4. LGBT/性少数者 (12/17, 13:30-15:00). It also provides contact information for NPO Kansai Community Networks.

2) 実施概要

- ・申込者数 106 名
- ・参加者数 82 名
- ・アーカイブ申込者数 190 名(内、事前申込 164 名、後日申込 26 名)
- ・アーカイブ視聴回数 205 回

3.ワークショップ「聞いて話して 一緒に考えよう!人権のこと」

自分は偏見も差別もしてないから関係ない。

そう思っている、気づかないうちに、だれかの人権を傷つけているかもしれません。

聞いてみる。話してみる。考えてみる。そうすれば、今まで気づかなかった気持ちや社会をより良くするアイデアが、見えてくるかも。聞いて話して、一緒に考えよう!人権のこと。

1)開催概要

【第1回】

- ・日時:2023年10月21日(土)13:30~17:00
- ・場所:あいちNPO交流プラザ 会議室(ウィルあいち 2F)
- ・事例発表:LGBT/部落差別

【第2回】

- ・日時:2023年10月29日(日)13:30~17:00
- ・場所:岩倉市民プラザ 多目的ホール
- ・事例発表:子ども/外国人

【第3回】

- ・日時:2023年12月10日(日)13:30~17:00
- ・場所:刈谷市総合文化センター アイリス 刈谷市生涯学習センター401・402号室
- ・事例発表:子ども/外国人

【第4回】

- ・日時:2023年12月17日(日)13:30~17:00
- ・場所:豊橋市民センター(カリオンビル)多目的ホール
- ・事例発表:LGBT/部落差別

【各回共通事項】

- ・定員:各会場50名(対面)
- ・参加費:無料

・主な内容

1. テーマに関する事例発表(1会場2テーマ)

当事者や支援者として積極的に取り組んでいる人から、人権に関わる各テーマについての現状、活動内容、提案などをお聞きします。

2. 様々な人権課題について考えるワークショップ

各会場で設定したテーマを含めて、様々な人権課題について知り、問題の背景や原因を探り、すべての人の人権が尊重される社会づくりへのアイデアを出し合います。

【当日のスケジュール】

開催時間 13:30~17:00(受付開始 13:00)

13:30 あいさつ、愛知県条例紹介

13:50 ワークショップ①

1. 本日のねらいの確認、進め方、お願い 3 つ(協力・尊重・守秘)
2. アイスブレイク~Yes/No 質問
3. 普遍的な人権とは

14:30 事例発表(2テーマ)

15:10 休憩

15:20 ワークショップ②

1. 事例発表の感想共有
2. 人権侵害のある社会をふりかえる
3. 人権が守られない・差別が続く原因を探る ……**成果物①**
4. 差別を終わらせ・人権尊重社会を築くために必要なもの・役立つこと・できること ……**成果物②**
5. ふりかえり・行動宣言

16:50 閉会

【事例発表者】

・第1回・第4回 事例発表:LGBT

りいなさん NPO 法人 ASTA 名古屋あおぞら部 部長

名古屋あおぞら部は、10~30代の、LGBTQ+当事者や当事者かもしれない人のための居場所。2016年より、名古屋市を拠点に定期的に開催し、現在までに累計2,000人が参加。LGBTQ+当事者、当事者かもしれない人、当事者を家族や友人に持つ人、ALLYやLGBTQ+について知りたい人の参加も歓迎し運営を行っている。

・第1回・第4回 事例発表:部落差別

尼野 千絵さん NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝 地域ささえあい推進室 コーディネーター

暮らしづくりネットワーク北芝は、大阪府・箕面市萱野地域を中心に、地域で暮らす人たちが「出会い・つながり・元気」を求め、「誰もが安心して暮らせるまちをつくりたい」という地域の人々の想いを共有し、知恵を出し合う「暮らしづくり」の協働活動を進めている。

・第2回 事例発表:子ども

荒井 和樹さん NPO 法人全国こども福祉センター 理事長

2012年に設立し、街中に交流の拠点を築き、公開の場で活動する。支援と被支援の関係性を越えて出会い、家出少女や不登校経験者、児童養護施設退所者や精神病院退院者、無国籍の若者が活動に参加し、ともに在ること、たがいの理解を深めることを目的に、共有地・共同体の運営を続けている。

・第3回 事例発表:子ども

原 京子さん 一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA 事務局長

2001年に「子どもの参画」をミッションにしたNPOを設立。居場所づくりや各自治体の子ども条例づくり等で子ども参画の実践を行う。子どもの権利条約フォーラム2012inあいち事務局長。2013年より移住し「石巻市子どもセンターらいつ」の運営基盤づくり支援。2016年伊勢志摩市民のサミットを機に子どもアドボカシーの普及啓発に取り組む。

・第2回・第3回 事例発表:外国人

伊東 浄江さん NPO 法人トルシーダ 理事長

1994年「不就学の子どもの居場所」として日本語教室の活動を開始。2003年トルシーダ設立。リーマンショックを機に文科省・IOMが実施した定住外国人の子どもの就学支援事業を受託。現在は、居場所としての教室に加え、進路支援の教室、プレスクールやプレクラス等を実施。外国人集住地域の豊田市保見団地では地域づくり事業も行っている。

【ワークショップファシリテーター】

伊沢 令子 NPO 法人NIED・国際理解教育センター 代表

1995年から東海地域を中心に、人権・環境・共生・国際理解、ファシリテーション、まちづくりをテーマに、JICA、自治体、教育委員会、大学、小・中・高等学校、NPO等からの依頼に応え、年間100回以上のワークショップを行っている。

【チラシ】

2) 実施概要

- ・申込者数 231名
- 第1回 64名
- 第2回 59名
- 第3回 56名
- 第4回 52名

- ・参加者数 207名
- 第1回 61名
- 第2回 54名
- 第3回 49名
- 第4回 43名

- ・動画視聴回数
- 事例発表 96回
- 愛知県条例紹介 26回

4. ワークショップ成果物の分析・まとめと提案、アンケートまとめ

1-1. 人権が守られない・差別が続く原因【テーマ:LGBTQ+、部落差別／会場:名古屋、豊橋】

成果物①

【LGBTQ+】

- 1) 社会的・文化的規範と伝統…伝統的な価値観／「ふつうはこう」という思い込み／性別は男女のみ
- 2) 偏見と根拠のない認識…嫌悪感／ちがう=おかしい／こわい／危険視
- 3) メディアと情報の影響…メディアの情報の扱い方／視聴者の見方／メディアの間違った情報
- 4) 法的・政策的な制限…法律がない／同性婚認められない／
- 5) ジェンダー規範と性役割…ジェンダーロール／男性は男性、女性は女性じゃないとダメという意識
- 6) 教育と学習の不足…現状に即していない教育や学び／自己肯定感が低い子がいる／知らないもの、未知なものに関わりたくない
- 7) 経済的・生産的な視点…子孫繁栄=いいことという考え／「出産は生産性」「生産性がない」と言う政治家がいる
- 8) 社会的圧力と同調…多数派のノリ／みんな一緒がいい／子どもがLGBTなのか心配という意識
- 9) 自己表現とアイデンティティの問題…性別を表現する文化／性別を表明しないといけない場面が多い／男と女という2つのみの性別
- 10) 社会的変化への抵抗…世の中は多数派の原理／違うものを受け入れない／見たことないものは理解できない

【部落差別】

- 1) 社会的・文化的規範と伝統…隔離／穢れに関わりたくない／歴史につくられた身分
- 2) 教育と学習の欠如…昔の教育／教えられてこない／親の意識／寝た子を起こすな／知らないから怖い／迷信
- 3) 偏見と根拠のない認識…穢れに対する偏見／自分より「下」の人をつくりたい／穢れ意識、仏教文化
- 4) 経済的格差と社会的立場…貧富の差／親の経済力／身分の固定化
- 5) マスメディアと情報の影響…マスメディア／インターネットの匿名性／メディアの誤情報／フェイク情報
- 6) 社会的圧力と同調…周り・家族から言われる／自己保身
- 7) 自己中心的な価値観と欲望…優遇の特権をねたむ／マウントとりたい／自分を優位にしたい！
- 8) 法的・政策的な不備…法律があっても行政が動かなかった／政策不足／戸籍制度／地理的特性
- 9) 社会的変化への抵抗…昔ながらの封建的な考え方／停滞したおびえた社会の現状
- 10) 人間性と心理的要因…自己肯定感の低さ／満たされていない感じ／不満のはけ口

【2つのテーマ及びすべての人権に共通する原因】

● 社会構造に関する原因

- 1) 教育と意識の欠如…学校で教えられない／教育の機会／教える人がいない
- 2) 法的・政策的な不備…法律・制度が十分ではない／政策／教育・会社不利益扱
- 3) 経済的・社会的立場…貧富の差／制服の着用／地域性
- 4) 社会構造とシステムの問題…社会構造／戸籍制度／絶対評価と相対評価
- 5) 社会的変化しにくい環境…均一的な教育／昔からの偏見／閉ざされたコミュニティ

● 人々の意識や文化に関する原因

- 6) 社会的・文化的規範と伝統…伝統的な価値観／浄と不浄／長い歴史
- 7) 偏見や根拠のない認識…嫌悪感／怖い／自分との「違い」にだけ注目
- 8) 間違った情報による誤解や不安…フェイク情報／誤った情報／実態がわからないからこわい
- 9) 無知・無関心…無知／無関心／興味が無い
- 10) 社会的圧力と同調…同調圧力／「皆仲良く」のまちがい／対立をさせる、分断
- 11) 自己保身や既得権益…自分は「かわいそう」じゃなくてよかったという意識／差別されたくない／自分さえよければ

1-2. 人権が守られない・差別が続く原因【テーマ:子ども、外国人／会場:岩倉、刈谷】

成果物①

【子ども】

- 1) 家庭環境と親の役割…子育て放棄／親が不安／親心良かれと思って／子どものことは基本親の責任／他の家のことを口出しできない
- 2) 学校教育の課題…学校で教えられない／学校教育／教師側の認識、知識不足
- 3) 文化的・社会的規範…年長者を敬う文化／おとなに従うことを求められる／子どもは半人前で教え導く存在という意識
- 4) メディアと情報の影響…SNS／ネットの情報／マスコミ報道
- 5) 無知・無関心…無知・無関心／知ろうとしない／私には関係ない
- 6) 子ども観…未熟な存在と認識／子どもの考えや意見を聞かない／子どもは大人の言うことを聞くべき
- 7) 社会的構造とシステムの問題…孤育て社会／学校という組織／戸籍／地域社会で育てるという意識の欠如
- 8) 経済的・社会的立場…親の経済力／仕事きびしい／余裕がない
- 9) 社会的変化への抵抗…「昔はそうだった」思考／親の世間体／子どもの声が騒音

【外国人】

- 1) 言語の壁…言葉が通じない／言語文化の違い／日本語がわからない
- 2) 文化的・社会的な差異…異文化／文化が違う／文化の不理解
- 3) 偏見と根拠のない認識…偏見／外見の違いに対する恐怖／異質な存在／欧米が上、アジア・アフリカは下という意識
- 4) メディアと情報の影響…メディアからの固定観念／SNSでの偏った意見／メディアの報道の仕方
- 5) 社会的圧力と同調…同調圧力「同じ」を好む／「和を乱す」のは×とされる／出る杭は打たれる
- 6) 無知・無関心…知る機会が少ない／興味がない／他人事
- 7) 経済的・社会的立場…単なる労働力／経済格差／職業選択の違い
- 8) 法的・政策的な不備…憲法に「国民」と書いてあることへの理解不足／法律の壁／外国人の現状を知らない
- 9) 交流とコミュニケーションの不足…交流する機会がない／コミュニケーションを取る場が不足／知り合うチャンスがない
- 10) 社会構造とシステムの問題…日本人単一民族幻想／国民国家の問題／単一文化の思い込み
- 11) 社会的変化への抵抗…日本は均質性／精神的鎖国／外国人とのコミュニケーションが少ない

【2つのテーマ及びすべての人権に共通する原因】

● 社会構造に関する原因

- 1) 教育と知識の不足…学校の問題／教育すべき存在という認識／人権教育を十分に受けていない
- 2) 法的・政策的な不備…法律／国際的な人権条約への理解がない／差別禁止法がない
- 3) 経済的・社会的立場…貧困／経済的に自立できていない／お金がない／決定権がない
- 4) 社会構造とシステムの問題…島国／国民ではない法の外／社会的価値観の代弁者に成り下がっている
- 5) 社会的孤立とつながりの欠如…つながりがない孤独／地域をつながりがない／接点がない

● 人々の意識や文化に関する原因

- 6) 偏見と根拠のない認識…偏見／立場が弱い／違いに着目し、違うことを認めない
- 7) メディアと情報の影響…メディアからの印象／マスメディアの取り上げ方に偏り／情報不足
- 8) 無知・無関心…知らない／知ろうとしない／無関心
- 9) 社会的圧力と同調…同調圧力／みんな一緒がいいこと／郷に入れば郷に従うの強制
- 10) 言語の壁とコミュニケーションの問題…言葉が通じない／コミュニケーションがとれないと思っている
- 11) 文化的・社会的な差異…異文化／違う習慣への無理解／生活文化の違い

2-1. 差別を終わらせ・人権尊重社会を築くために【国・県・市町村にしてほしいこと】

成果物②

● 社会構造に対するアプローチ

1. 法律・条例の制定・改正

法律、条例の制定、実行／包括的差別禁止法をつくる／同性婚を認める／差別を禁止する法律
／インターネット上の差別を禁止する法律

2. 罰則・ルールの整備

啓発だけでなく、差別した人に罰則を設ける／必要なら、努力義務ではなく罰則のある法律を作る
／罰則を与える

3. 人権推進の仕組み・機関の設置

相談体制の充実／相談窓口を増やす／人権についてのファシリテーター養成（専門資格）
／人権 NPO 等とのネットワーク・協力体制の構築

4. 経済的・政策的支援

助成金／多様性へ対応できる予算／金銭的支援／予算をつける

5. 社会的構造・システムの変革

社会的構造を変革する戦略／学校制度の改革／多様性を大切にす制度
／制度のはざまの人たちを見捨てない

● 人々の意識や文化に対するアプローチ

6. 人権教育・啓発活動

学習指導要領（人権教育）の充実／人権啓発キャラバンを全市町村で実施／教育につなぐシステム
／学ぶ機会をつくる

7. イベント・ワークショップの開催

人権にかかわるイベントを企画／ワークショップの開催／学びの場

8. 情報提供・コミュニケーション

ちゃんと知らせる情報提供／きめ細かい PR／いろいろな言語の情報提供／正しい情報を提供・発信する

● 共通するアプローチ

9. コミュニティとインフラの強化

コミュニティづくりの支援／まだ残っている地域のインフラ整備／ポジティブな出会い／交流イベント

10. 国際的視野・他国からの学び

先進国、先進的な事例から学ぶ／海外から学びアップデートする
／外国の事例を学ぶ

2-2. 差別を終わらせ・人権尊重社会を築くために【学校・地域・会社がすべきこと】

成果物②

● 学校に対するアプローチ

1. 教育・実践

正しい人権教育を指導する／アップデートした教育／部落差別についての教育／学ぶ機会を作る
／多様性を大切にする実践

2. 学校教育現場の改革

教育現場に専門職を配置／学習指導要領の見直し／教師にも多様な人材／授業のやり方を変える
／制服、校則の廃止／教育委員に外国人(多様な人材)

3. 生徒・学生の参加・権限付与

生徒に合わせたカリキュラム、活動／学校制度の民主化／生徒の決定権を増やす

4. イベント・プログラムの開催

人権にかかわるイベントへの参加／道徳や時事を授業で学ぶ／親や地域を巻き込むイベント

● 会社に対するアプローチ

5. 労働環境・ワークライフバランス

ワークライフバランス／職場に合わせた人権教育／ワークショップや研修の実施／制度を整える

6. 環境・設備の改善

みんなのトイレ(多目的、バリアフリー)／企業の多様性を意識した採用

● 地域及びすべてに共通するアプローチ

7. コミュニティ構築

コミュニティづくり／地域のコミュニティ同士の交流／コミュニケーションの機会を増やす
／多様性の必要性を理解する／居場所づくり(困っている人が集える場所)

8. 対話・コミュニケーションの促進

対話のための場づくり／「差別はだめだよ」ではなく、自己省察を促す／交流イベントやプログラムの実施
／多様な視点を持つ教育

9. 社会的インクルージョン

インクルーシブ教育／合理的配慮／受け入れる体制を作る／多様性を大切にする
／「普通」という言葉を使わない

● 自分の内面へのアプローチ

1. 自己反省と自己認識

自分の中の当事者性に気づく／差別している自分に気づく／自分の常識に疑問を持つ
／自己肯定感を高める／人を気にするのではなく、自分で評価することを大切にする

2. 意識と態度の変化

自分の当たり前を疑う／ちがいを楽しむ／多様性の受容力を高める／周りの意見に流されない
／「ふつう」「当たり前」「常識」という言葉を使わない

3. 認識の変更と意見形成

マナー、モラル、常識の更新／意見を持つ／価値観の多様性に気づく／無関心が最大の人権侵害
／関心をもつ、自分事として捉える

4. 学習と自己啓発

学習、本を読む／正しい知識を身につける／学ぶ(自分のアップデート)／自己覚知、自己理解を深める
／無知の自分を知る

5. 情報の取得とアップデート

新しい情報を手に入れる／正しい情報を見極める／知ろうとする気持ち／情報を update する

● 社会的行動へのアプローチ

6. コミュニケーションと対話

相手の立場に立ってみる／「それが差別だよ」と教えてあげる／一緒にごはんをたべる
／1対1の個人としての出会い、コミュニケーションを大切に

7. 当事者との関わり

当事者の声をきく／無知を恐れない／関心をもつ／自分がリーダーになる
／“差別をしない”意識ではなく、“差別をなくす”という意識を持ってかかわる

8. コミュニティへの参加と活動

コミュニティづくり／地域のコミュニティ同士の交流／コミュニケーションの機会を増やす
／多様性の必要性を理解する／居場所づくり(困っている人が集える場所)

9. 市民活動的行動と参加

学んだことの発信／考えたことを行動に移す／活動に参加する、かかわる
／行動する力をつける、変わる勇気／人権に関わるイベントに企画、参加

3. 人権課題の主な原因を踏まえた県施策 4つの具体的な提案

愛知県が推進プランで提示した「包括性」「多様性」「交差性」を具現化するために4つ提案します。

● 「人権教育」に関する提案 -----

1. 参加型人権教育ファシリテーター養成～担い手を増やし、様々な現場における人権教育を進めよう!

- ① 参加者が考えた原因:教育と学習の欠如、教育と知識の不足、無知・無関心
- ② 参加者が考えた方策:人権推進の仕組み・機関の設置(人権についてのファシリテーター養成(専門資格)、教育・実践(正しい人権教育を指導する)、学校教育現場の改革(授業のやり方を変える)
- ③ 具体的な提案:参加型人権教育ファシリテーター養成講座開催と担い手認定制度
 - ・知識理解・啓発系の”人権についての教育”だけでなく、参加体験型学習により人々の行動変容を促す”人権のための教育”を行うことは、人権感覚を育成するために効果的であるとされています。
 - ・そのため、参加体験型学習の進行役であるファシリテーターを養成する講座を企画・実施し、修了した受講者を県認定の担い手として、その人数を増やしていきます。
 - ・学校、会社、地域など様々な場にファシリテーターを派遣することで、人々の人権感覚醸成と行動変容を促すことができ、次の2つ目の提案の担い手としても活躍を期待できます。

2. 人権学習出前講座リスト冊子作成～人権教育への取組みのハードルを取り除こう!

- ① 参加者が考えた原因:教育と意識の欠如(人権教育を十分に受けていない、教師側の認識・知識不足)
- ② 参加者が考えた方策:人権教育・啓発活動(教育につなぐシステム、学ぶ機会をつくる)
- ③ 具体的な提案:学校向け愛知県人権学習プログラム出前授業一覧
 - ・NPO、企業、自治体、個人などの様々な主体が実施する人権学習プログラムメニューを一冊の本にまとめ、愛知県内の学校に配布します。
 - ・学校側は関心のあるプログラムを選び、愛知県に申込み、出前授業を受け入れ実施します。学校は生徒児童にあったテーマを外部の力を借りて実施することができます。

※環境分野では、名古屋市が「名古屋市環境学習プログラム」として実施されており、令和4年度は、229園、138校で実施されていました。

● 「人権啓発」に関する提案 -----

3. 人権啓発キャラバン事業の継続・拡充～人権課題について考える機会をつくろう!

- ① 参加者が考えた原因: 偏見や根拠のない認識(自分との違い、違いに着目し違うことを認めない)
- ② 参加者が考えた方策: イベント・ワークショップの開催(人権についての学びの場の創出)
- ③ 具体的な提案: 人権施策の実施状況をふまえた人権啓発キャラバンネクスト
 - ・今年度の人権啓発キャラバン事業をさらに発展させた人権課題を深掘りする取り組みが必要です。
 - ・あいち人権推進プランでは人権施策の実施状況を「あいち人権施策年次レポート」にまとめて公表することが定められています。人権施策の実施状況を確認し、施策の効果の表れが弱い人権課題を重点的に人権啓発キャラバンのテーマとして取り上げ、県内各地(ワークショップ未実施の地域を優先して開催)で実施することで、より効果的な啓発事業を実現できます。

4. 当事者・支援団体のつながり創出～当事者、支援団体が直接対話する機会を創出し、ゆるやかにつながりあおう!

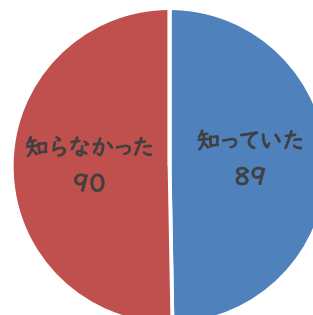
- ① 参加者が考えた原因: 偏見と根拠のない認識、間違っただ情報による誤解や不安
- ② 参加者が考えた方策: 対話・コミュニケーションの促進、コミュニティ構築
- ③ 具体的な提案: 当事者・支援団体が集まり対話型・交流イベントの当事者団体等実行委員会形式による定期開催
 - ・人権課題に係る偏見を減らし、相互理解を深めることを目的に、当事者と支援団体等が直接対話し交流する機会(交流イベント)を定期的で開催します。
 - ・本交流イベントは属性や分野を超えた多様な団体・個人の参加を得て実行委員会形式で企画を考え、運営を担うことで、当事者・支援団体間のゆるやかなネットワークをつくることをめざします。

アンケートまとめ

申込者数	231
参加者数	207
アンケート回答者数	179

(1) 愛知県人権尊重の社会づくり条例について知っていましたか？

知っていた	89	50%
知らなかった	90	50%
無回答	0	0%

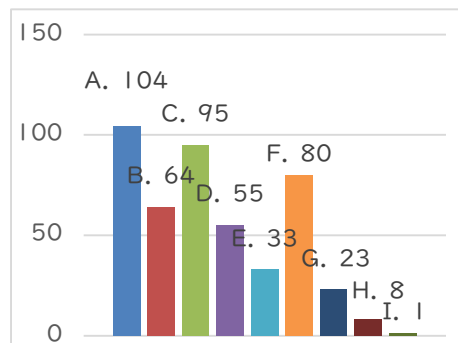


(2) 「知っていた」と回答した方は、どこで知りましたか？

- ・このイベントに誘われたときに、説明を受けた。
- ・ホームページ
- ・人権についての委員会
- ・NIED より
- ・愛知県ホームページ
- ・安田菜津紀さんの講演会
- ・人権教育において、愛知学院大学からの紹介
- ・愛知県
- ・ごめんなさい。忘れました。
- ・インターネット
- ・市町村
- ・パブリックコメント
- ・昨年、活動の中でチラシを見た。
- ・このイベントがあることを知った際に、調べた。
- ・愛知県人権啓発企業連絡会
- ・昨年の講演会
- ・加入団体
- ・パンフレット(春日井市で)
- ・職場
- ・自治体の広報
- ・人権啓発キャラバンに参加して知った。
- ・愛知県の新聞
- ・報道で知った。
- ・NPO 仲間から知ったが、条例を作っていることは知っていたが条文などについては知らなかった。
- ・愛知県障がい者虐待防止、差別解消推進協議会において紹介されていた。
- ・知人から
- ・審議会
- ・前回の人権啓発キャラバンで知った。
- ・業務の中で
- ・知人、家族から
- ・10/21 の人権啓発キャラバン
- ・10/29 岩倉の人権啓発キャラバン
- ・チラシ
- ・この研修の案内
- ・この講座があることを知って調べた。
- ・ホームページ
- ・第1回の人権啓発キャラバンに参加した。
- ・県のチラシ・ポスター
- ・人企連 HP や定例会発信
- ・テレビ
- ・運動団体に運動しているため。
- ・活動で知った。
- ・愛知県庁舎
- ・この事業の広報
- ・会社
- ・イーブルなごや、女性会館
- ・人権に関する団体
- ・愛知県人企連 大橋課長から直接

(3) 本日の参加動機について、当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権全般に関心があった	104	58%
B. 人権教育に関心があった	64	36%
C. その日の人権課題(テーマ)に関心があった	95	53%
D. 事例発表者に関心があった	55	31%
E. ファシリテーターに関心があった	33	18%
F. 人権課題について他の参加者と話し合ってみたかった	80	45%
G. 誘われたから来た	23	13%
H. その他	8	4%
I. 無回答	1	1%

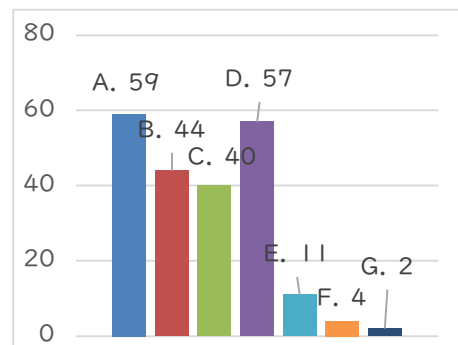


【その他回答】

- ・人権条例に関心がある。
- ・テーブルファシリテーター
- ・自分の考えを述べたかったので。
- ・職場に案内が来ていた。
- ・外国人の人権に関心があった。
- ・業務、役割のひとつとして。
- ・事例発表者
- ・第1回に参加して、面白かったので別テーマでも参加したくなった。

(4)-1 事例発表(テーマ:LGBT)を聞いて、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権課題(LGBT)の現状がわかった	59	33%
B. 人権課題(LGBT)が起こっている原因や背景がわかった	44	25%
C. 自分にも関係していることがわかった	40	22%
D. 人権課題を解決する取り組みを知ることができた	57	32%
E. 以前から知っている内容だった	11	6%
F. その他	4	2%
G. 無回答	2	1%

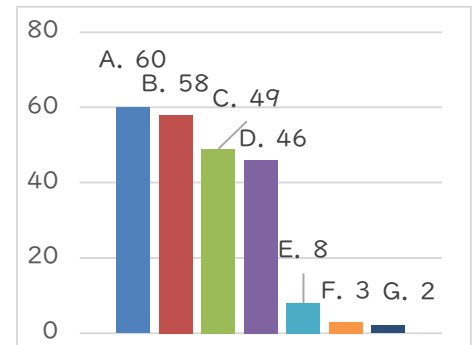


【その他回答】

- ・イラスト集を作るなど、ちょっとした環境改善からできると気付いた。
- ・事例発表者の時間が短く、もう少し理解を深めたかった。
- ・インスタからメッセージを送りました。手伝いたい。
- ・名古屋レインボーパレードのスタッフなので、紹介されて嬉しかった。

(4)-2 事例発表(テーマ:子ども)を聞いて、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権課題(子ども)の現状がわかった	60	34%
B. 人権課題(子ども)が起こっている原因や背景がわかった	58	32%
C. 自分にも関係していることがわかった	49	27%
D. 人権課題を解決する取り組みを知ることができた	46	26%
E. 以前から知っている内容だった	8	4%
F. その他	3	2%
G. 無回答	2	1%

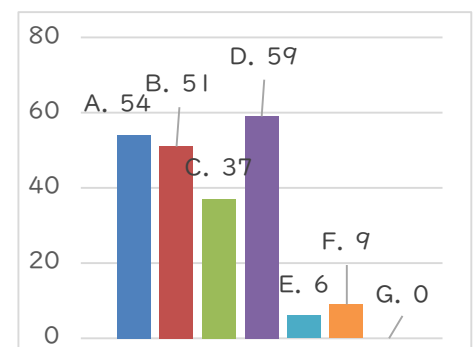


【その他回答】

- ・より具体的な事例を知って、あきれ果てました。
- ・意外!と思ったことがいくつかあった。
- ・子どもの権利条約についてもっと知りたくなった。

(5)-1 事例発表(テーマ:部落差別)を聞いて、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権課題(部落差別)の現状がわかった	54	30%
B. 人権課題(部落差別)が起こっている原因や背景がわかった	51	28%
C. 自分にも関係していることがわかった	37	21%
D. 人権課題を解決する取り組みを知ることができた	59	33%
E. 以前から知っている内容だった	6	3%
F. その他	9	5%
G. 無回答	0	0%

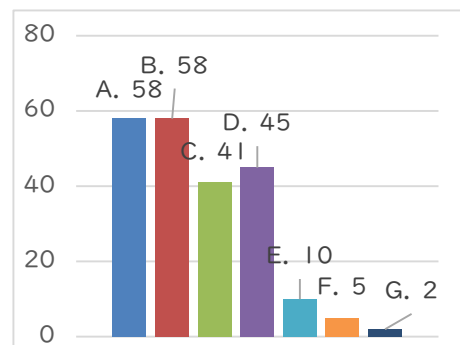


【その他回答】

- ・もっと知りたい。
- ・事例発表者の時間が短く、もう少し理解を深めたかった。
- ・以前の知識や学びが変わっていた。
- ・当事者がわかりにくい差別だということが、強烈に印象に残った。
- ・部落差別による現状は、情報の範囲内で理解できましたが、20年以上も問題解決しない大阪府もとい日本政府の対応に怒りを覚えた。本来の役割を捨てているのはもっての外。人との助け合いで地域貢献という考えは素晴らしいが、逆に考えると「人」という財でまかなうのは「貧困」を中心とした状況解決は見込みが無いと感じた。
- ・2回聞いたけど、何回でも聞きたくなる発表者だった。
- ・発表時間が短くて残念でした。
- ・法律の名称が違っていました。訂正がなかったのは、良くないです。大阪と愛知の現状は違います。愛知の方に報告してほしかったです。
- ・ネットに対してフェイクを見付ける。

(5)-2 事例発表(テーマ:外国人)を聞いて、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権課題(外国人)の現状がわかった	58	32%
B. 人権課題(外国人)が起こっている原因や背景がわかった	58	32%
C. 自分にも関係していることがわかった	41	23%
D. 人権課題を解決する取り組みを知ることができた	45	25%
E. 以前から知っている内容だった	10	6%
F. その他	5	3%
G. 無回答	2	1%

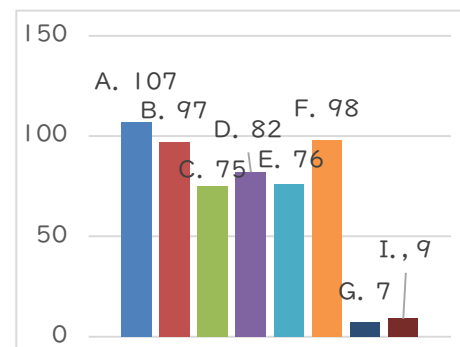


【その他回答】

- ・話題提供者
- ・卒業証書問題。きっと、全国各地で起こっている。ブラジル人学校の年度が12月までだから。
- ・より具体的な知りたかった深い部分がわかった。
- ・伝えたいと思った。
- ・もっと知りたくなった。

(6) ワークショップに参加して、次のうち当てはまるものに○をつけてください。

A. 人権についての理解が深まった	107	60%
B. 多岐にわたる人権課題があることが分かった	97	54%
C. 人権課題を作り出している原因や背景がわかった	75	42%
D. 人権課題と自分との関わりがわかった	82	46%
E. 人権課題を解決するために必要なものがわかった	76	42%
F. 人権尊重社会の実現に向けて行動する意欲が湧いた	98	55%
G. その他	7	4%
I. 無回答	9	5%

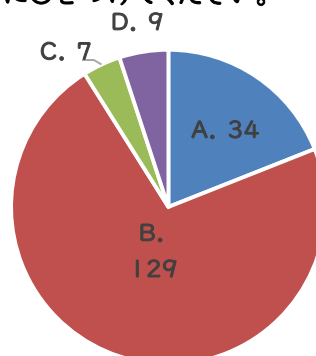


【その他回答】

- ・より具体的な事例がわかった。
- ・参加型が苦手な人もきつという。
- ・子ども・外国人の人権に関心を持っている人がたくさんいることがわかった。
- ・ワークショップのあり方、必要性
- ・他の人の考えや想いを知れた。
- ・分かったというよりも、対話できたことがとても良かったです。
- ・愛知県の職員の意識は大丈夫なの？

(7) 本日のイベントの開催時間(3時間)の長さについて、当てはまるものに○をつけてください。

A. もっと長くてもよい	34	19%
B. ちょうどよい	129	72%
C. もっと短い方がよい	7	4%
D. 無回答	9	10%



(8) 今後、人権課題についての啓発・教育や人権尊重社会づくりのために、愛知県に取り組んでほしいことは何ですか？

●教育

- ・まずは、学ぶ機会を増やす。学校教育・社会教育の人権教育計画のバージョンアップ
- ・教育の見直し
- ・学校現場で本日のようなワークショップを提供してほしい。
- ・社会教育との連携
- ・多岐の分野に渡る連携。教育・福祉分野に LGBT に詳しい人からの助言や対話する機会があると良いと思う。「ちゃん・くん」付け、男女別の場面など。1つ1つ変えていけることはあると思う。
- ・正しい教育
- ・教育にお金をかけてほしい!! 専門家を育成してほしい!
- ・このような学びの場を増やしてほしい。学校教育にも!
- ・子どもの人権教育(外国人家庭を含む)
- ・市町村で虐待の対応など、日々行っています。現場で感じるのは、虐待を表層の行為(殴るなど)のみで捉え、その背景にある人権侵害に焦点があたっていないことです。それは、虐待のみならず、医療・福祉の本来人権を守るべき機関がそのような状況であり、最前線の現場へ人権教育を部局を越えて行ってほしい。市町村に指導してほしい。
- ・教職員への研修の充実(そもそも研修ができるような職場にすることも含め)
- ・教育への導入
- ・人権教育を学校に広めてほしい。
- ・学校に出前授業をしてほしい。
- ・学校との連携。研究を委嘱するだけでなく、具体的な行動案策定など、形にできるノウハウをレクチャーできるモデル柱づくり。県プランが浸透できるようにする。
- ・県内の学校で生徒が校則について討論できるよう促す。
- ・教育、学校現場を子どもの声を聴いてかえていく。
- ・当事者意識を深める取り組み
- ・全般の人々に教育ができるように取り組んでほしい。
- ・企業への講師派遣、勉強会など
- ・学校教育における義務化(小中高)
- ・学校に子どもの権利条約が広く知り渡るよう周知と研修を義務付けしていただきたいです。
- ・こども世代の外国人向け日本語教育
- ・教育現場で全職員が学べる機会を作ってほしい。
- ・条例に対しての教育

●啓発

- ・このようなキャラバンをたくさん開いてほしい。このようなイベントに参加したことがない方々にも参加してほしいです!(PR と粘り強いワークショップの開催)
- ・こうした活動を増やしてほしい。
- ・啓発イベントを様々な参加者を対象に(子ども向け)
- ・多くの県民を対象とした人権イベント

- ・このような勉強会をまた開いてください。
- ・啓発(今回のようなワークショップ)を地域できめ細かく開催してほしい。
- ・東海三県と県・市教育委員会を巻き込み、このような企画を実践していただきたい。
- ・今回のようなワークショップの回数を増やすか、固定的なワークショップのような企画を行ってほしい。
- ・今回のような学びの場を多く作っていただきたいです。
- ・このような機会をもっと多く開催してほしい。潜在的な需要は多いのではないかな。
- ・今回のようなイベントをこれからも行ってほしい。
- ・異文化を知るための体験事業
- ・人権啓発キャラバンをテーマごとに、もっとワークショップなど定期的にやってほしい。
- ・関心の低い層へのアプローチ(文だけではなく、四コマ漫画などであるあるなことや、関わりのあること、自分が差別される側であることを電車・地下鉄の吊革広告に出すなど)
- ・この人権啓発キャラバンを全市町村できめ細かく実施してほしい。
- ・このような機会を増やしてほしい。次はいつあるのか、情報提供を!
- ・人権啓発キャラバン事業のようなワークショップ・参加型の取り組みを維持してほしい。また各自治体での実施を働きかけてほしい。
- ・このワークショップを全市町村で行ってほしい。事例報告はもう少し時間をかけても良いと思います。
- ・もう少しアクセスの良い場所、もしくは多くの地域で実施
- ・今回のような参加型の取り組みを増やすこと。
- ・このような機会をもっと多くの市町村で実施してほしい。講演会よりも、このようなワークショップの場があると良いと思います。
- ・もっと幅広く県民が参加しやすい発信での啓発に取り組んでもらいたい。
- ・引き続き継続してください。
- ・このような場づくりを市町村単位にもおろしていくこと→啓発を広げる
- ・このようなワークショップをたくさんやってほしい。子どもたちに自分たちの人権について学ぶ機会をきちんと作ってほしい。
- ・このような機会を継続すること
- ・この人権啓発キャラバンを県下全市町でやってほしい。
- ・県民の意見がもっと多くすい上げられる機会を作ってほしい。
- ・岐阜、三重にも、このキャラバンを広げてほしい。もしくは共催してほしい。
- ・今回の研修会に関わらず、多岐にわたる研修の回数を増やしてほしい。学校で子ども達向け出前講座を行ってほしい。
- ・このように様々な世代、背景の人々が集まって、意見を交流する場があると良いと思います。
- ・人権啓発キャラバンを継続してください。NIEDさんのワークショップは、素晴らしいです。ボランティアネイバーズさん、ありがとうございました。
- ・啓発や教育の「場」の提供
- ・キャラバンを続けてほしい。
- ・多様な人(関心の無い人)にも伝わるような啓発活動→人権推進委員会(年3回の)の存在をもっとアピール!!
- ・今回のような機会を増やし、県民に周知して欲しい。参加した人たちには、必ず連絡や案内が届く仕組みをお願いしたい。
- ・子育て中の親に、子どもの権利、人権について学べる機会を作って欲しい。

- ・いろいろな人の出会いの場、理解促進
- ・広く多くの人に人権について考えることができた。啓発活動をしてほしい。
- ・感想の中で、小学校の先生が「最後は学校で…」とおっしゃっていましたが、そうならない取り組みをして欲しいです。手と口を出しにくいのは重々承知しておりますが、子どもも外国人も受け入れしていくのは「社会」であり、大人や企業です。特に企業への啓発や教育に力を入れていただきたいです。
- ・人権のことをフラッと意見交換できる、このような取り組みをもっと行って欲しい。
- ・条例だけではなく積極的に県民に対して啓蒙活動を行って欲しい。まだまだ県民の意識の向上は足りていないと思う。
- ・多くの人(様々な人)が人権について話をする機会、時間を作ってほしいと思います。選択だと偏るため、半ば強引にその時間はつくってもらった方が良くと思います。
- ・条例の周知
- ・発信に工夫があると良い。
- ・映画会、講演会など
- ・今回のような参加型を教育の場でもやってほしい。
- ・県民を対象としたビックイベント
- ・キャラバン、多様な人の話し合いの場、小さな単位での活かしあい。
- ・やはり相談窓口(有効な)の設置と、啓発はしっかり取り組んでほしい。市町村に、しっかり取り組むように。
- ・このようなワークショップを多く開いてほしい。無関心の人が参加できる仕組みで行ってほしいです。
- ・このようなワークショップ
- ・このようなイベントをもっと開催、告知してほしい。
- ・キャラバンを続けてください。
- ・啓発機会を増やしてほしい。
- ・人権啓発キャラバンを他の市町村でも実施してほしい。
- ・このような機会をどんどん増やしてほしい。

●政策

- ・県の姿勢をより示すために条例に禁止・罰則も!
- ・差別禁止の法制化を!
- ・国に対して差別に対する罰則規制を設けるべきであると訴えてほしい。
- ・子どもの権利条約と子どもオンブズマンの設置
- ・現状の調査を実施して、その結果を教えてほしい。その結果をふまえて、条例の見直しを検討してもらいたい。
- ・入管に收容される外国人の人権
- ・ニーズに合った夜間中学校をニーズに合った数作ってほしい。
- ・誰もが相談できるコミュニティづくり
- ・学校制度の改革
- ・相談活動、実態調査、効果的な取り組みを望みます。
- ・相談体制の充実
- ・様々な背景の人が働きやすい職場を県内企業が作りやすいようにするためのガイドライン等の作成。愛知県から実施!
- ・差別罰則について明確なメッセージをお願いします。
- ・法律を変えられるように働きかけてほしい。

- ・同性婚を認めてほしい。せめて、パートナーシップからでも、小さな一歩として動いてほしいです。
- ・NPO などの活動をしている所に出向いて話を聞き、政策（対策）などに取り入れてほしい。
- ・シンガポールのように、ある程度思い切ったことをやってほしい。結果を出すこと。
- ・人権条例の具体的なアクションプラン。制定から行動へ
- ・子どもの権利条約の策定
- ・ひとりももらさない弱者の救済政策を求める。社会から（コミュニティから）はみ出している人を作らない政策。
- ・子ども家庭庁が行っているように、子ども向けのパブリックコメントをしてほしい。そして、それに対して真剣に回答できることはパブリックコメントをきっかけに変えてほしい。
- ・困っていることを流さず、安心できる制度作り。
- ・人権に関することへの予算を増やす。
- ・モニタリング事業の成果等を知る機会が欲しいです。
- ・今回出てきた意見を反映させたイベントなどの企画、法律の制定
- ・法律や条例を県民と作成
- ・多様性憲章をつくり、企業等の団体に参加を広げてほしい。
- ・外国人の参政権
- ・市議会などの場に、子どもが入って意見を言うための機会があると良いかと。
- ・外国人を受け入れるための法律をつくる。
- ・人権教育を外部 NPO などと一緒にできるように教育に予算を付ける。
- ・人権課題の啓発、教育についての催しに参加すると、県民税が減税されるなどのインセンティブを法制化する。それについて同意しない県議は、人権について理解がない議員としてホームページや SNS で掲載するという条例を通す。
- ・子どもが主体となって考える法律をつくる。
- ・地域差別がないように外国人の対する対応をしてほしい。
- ・今回の学びを次に活かすためのツールや手法の開発、実践→ふりかえり。次につなげる場づくり
- ・マイノリティと呼ばれる人たちが、もっと暮らしやすくなるようにしてほしいです。
- ・国際学校を設立されたことを高く評価しています。今後も外国にルーツを持つ子どもに対する支援の充実をお願いします。
- ・外国人の子どもに就学義務がなく、保護者が手続きをしない限り就学できないという現状（熱心に取り組んでいる市町もありますが、地域差があります）不就学の子どもたちは地域につながれず、ヤングケアラーになっていたとしても、どう社会が介入できるのでしょうか。なかなか個人では叶えられない制度に県から取り組みを行ってほしいです。
- ・市町村が積極的に学校や地域コミュニティと関わってほしい。
- ・地域交流の場をつくる。
- ・理念的なことを具体的な実施に落とし込んだ政策を実施してほしい。
- ・せめて愛知県内だけでも、外国籍の子の学ぶ権利を守れるよう、各市町村に対応させたり、県主導で何かしてほしいです。
- ・相談窓口を利用しやすくしてほしい。
- ・関連法規見直しに向けての国への提言
- ・「人権擁護先進地域」という宣言をして、職員を増やし、予算を講じてほしい。
- ・人権の制度をもっと作ってほしい。
- ・実効性のある人権プランになることを希望します。相談事業についても、実効性があるものにしていただきたい。
- ・教育、法律の制定

- ・NIED のワークショップに職員を送り込んでください。
- ・他県（関西）のように積極的に部落問題について、発信してほしい。LGBT は、中高年への教育（情報発信）が必要。
- ・人権に詳しい人材育成をしてほしい。
- ・人権プラザのような情報発信、交流、学習、調査施設を設置してほしい。
- ・企業、学校等とも連携してほしい。

●当事者

- ・居場所づくりの支援
- ・支援・当事者の声が反映される内容にしてほしい。
- ・コミュニティへの支援
- ・当事者との交流の場
- ・弱い人の声をきく機会を増やしてほしい。
- ・人権課題について NPO 支援、困っている方々の話を聞く。
- ・夜間中学校の設置について。当事者のニーズに寄り添った形で実現していただきたいです。
- ・当事者の声を聞く。
- ・当事者の声に耳を傾けてほしいです。
- ・障がい者向けのもの、障がい関係のもの

●その他

- ・正しい情報発信（ポジティブ）
- ・多文化共生について
- ・発達障がいについて
- ・NPO 等の参入するハードルを下げしてほしい。
- ・「人権課題」「人権尊重」の言葉が難しい。ポップにできないか。
- ・多様な人事
- ・ふれあいの場の提供（できれば組織へ無償で）
- ・警察など、公務員への人権研修
- ・情報発信
- ・県の取引先が人権を守ることを委託発注のインセンティブにしていくこと（経済的インセンティブがないと企業は動かない）
- ・静岡県から参加したので、愛知県を取り組みを更に学んでいきたいです。
- ・情報配信をもっとわかりやすく

(9) 今後、取り上げてほしい人権課題、事例発表者があれば教えてください。

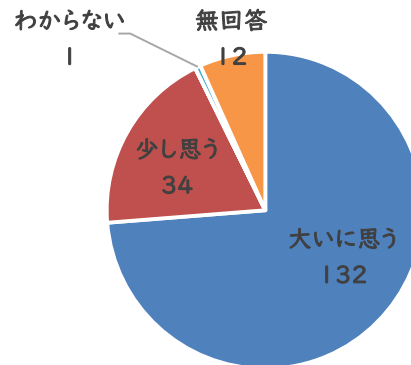
- ・ギャンブルやお酒等の依存症
- ・発達障がい
- ・職に対する「障がい者」
- ・外国につながる子ども
- ・ホームレスの方
(精神疾患を抱えている方も多くいると聞くため)
- ・朝鮮・韓国人に対する差別
- ・なぜ「人権問題」は起こるのか
(時事問題、負の一面から考察)
- ・「男性」がなぜ含まれていないか
- ・エイジズム
- ・ヘイトスピーチ
- ・ハンセン病問題、感染症について
- ・同じ内容で、進み具合
- ・ワークショップで使用した人権課題の順番
- ・障がい者
- ・年齢差別(エイジズム)
- ・育児における女性の権利
- ・ハンセン病
- ・子どもの生き辛い、育ちにくい、育てにくい社会
- ・NPO 法人 権利擁護サポートプラザそねっと
- ・インターネットのヘイト書き込み
- ・チェカンイジャさん(川崎ふれあい館)
- ・部落差別
- ・LGBTQ+
- ・障がい者
- ・複合差別について
- ・ヤングケアラー
- ・きさらぎみらい
- ・外国人の人権を掘り下げたいです。
- ・人権課題として、今回発表されていないもの(感染症患者、障がい者)があれば、そちらをぜひお願いしたいです。
- ・実際に現場でどのように人権意識を高める取り組みをしているのかを知りたい(学校、地域で)
- ・子どもへの教育課程の中に、人権教育を取り入れてほしい。「人は違って当たり前」という感覚を育てるために工夫してほしい。
- ・「子ども」は不登校なども含め、様々な方や分野があると思います。
- ・LGBTQ+ クーゼスの田中さん 会社の経営者という視点で教えてください。たくさんあります。
- ・人権課題を解決する取り組みについて、もう少し詳しく知りたかった。
- ・そもそもの基本的人権について、あまりわかっていないので学べる機会があればいいなと思います。
- ・なぜ、各国でまだ争いが起こるのかを取り上げてほしい。
- ・日本で生まれて育った外国人生徒だった人
- ・インターネットと人権
- ・子どもの貧困
- ・労働者の人権
- ・戸籍変更は性転換しないとダメなのか
- ・人権問題全般
- ・犯罪者の人権
- ・部落差別
- ・難病患者、ご家族 仕事と治療の両立に取り組み方
- ・部落差別は、愛知県の課題について
- ・外国人
- ・犯罪被害者の人権課題
- ・戦争について
- ・子どもの人権
- ・いじめ など
- ・夜間中学に関わる人や団体
- ・若者の人権
- ・ヘイトスピーチへの対応について
- ・高齢者の人権
- ・犯罪加害者、本人及びその家族
- ・ヘイトスピーチ、ヘイトクライム問題
- ・技能実習生
- ・在日コリアン、在日外国人の当事者の発表
- ・女性について
- ・ドメスティックバイオレンスについて
- ・ホームレス
- ・精神障がい者
- ・成人外国人の現状
- ・宗教案件

(10) その他、ご意見など教えてください。

- ・このような研修の企画をありがとうございました。
- ・とても良い機会になりました。ありがとうございます。丁寧なキャラバンを続けてください。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・事例発表者への質問がしたいです。
- ・グループの中で、ふりかえりの際に「苦しい」と言われた方がいた。私もちょっと「苦しい」と思った。自分の無知やこれまでへのふりかえりだと思う。苦しいけど、楽しい。苦しいけど、必要な研修でした。
- ・とても楽しいワークショップでした。
- ・少し勉強のようで、少し疲れました。
- ・全体的に進行が早すぎたため、ついていけなかった。「差別とは何か」という点が明確になっていないため、話ずらかった。
- ・すごく勉強になりました。知っていることもありましたが、意識が薄れていたもので、このような機会があるとまた考え直すきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・もう少しゆっくり考えたいです。慌ただしい。ゆっくりお一方の事例(物語)を聞きたいです。
- ・身近な差別を含む人権について、とても良い機会を作っていただき、ありがとうございました。ファシリテートにより、思考の仕方が日常の仕事にもつながることを多く吸収できた。
- ・1回1回のアクティビティの時間が短いと思う。考えを深めるためにも、もう少しアクティビティの数を減らし、長く時間を取った方が良い。
- ・勉強になりました。
- ・Zoomでも行ってほしい。
- ・場所がわかりづらかったです・・・。
- ・外国人の方が日本で働くことを選びたいくなるような法整備を推進してください。
- ・「人権」今までさけていた課題ですが、向かい合ってみて良かったです。
- ・各学校から、1名ずつ動員しよう。
- ・いろんな意見を聞ける良い機会でした。その後の暮らしにも活かしたい。
- ・たまたま携帯をいじっていて知った催し。もっと広く多くの人に考えていただける場を設けた方が良いと思う。
- ・継続的に毎年開催されることを期待致したく
- ・ワークショップで「問題解決のためのシステム思考」は人権という課題にはマッチしないと感じた。因果関係図はかえって理解を妨げる。汎用的なものではなく「人権」にふさわしいフレームワークを考えるべき。
- ・ありがとうございました。”部落テーマ”は折角なのでもう少し聞きたかったです。
- ・部落差別は地元の詳しい方の発表が良い。

(11) あなたは、この催しに参加されて、あなた自身がお互いを認め合い、人権を尊重していくきっかけになったと思いますか。

大いに思う	132	74%
少し思う	34	19%
あまり思わない	0	0%
思わない	0	0%
わからない	1	1%
無回答	12	7%



(12) 法律の整備や、様々な人権啓発活動が行われていますが、10年ほど前に比べ、人権に対する意識や関心が高まり、以前より人権に配慮する人が増えたと思いますか。

そう思う	50	28%
少し思う	79	44%
あまり思わない	19	11%
思わない	7	4%
わからない	4	2%
無回答	20	11%

